

プライベートの釣りだけでなく、トーナメントにおいてもベイトタックルの有効性を追求してきた新さんに、最新のエリアベイトタックルを使った最速の釣りについて解説してもらおう。



講師：新 辰樹
OLIVE フィッシングパーツ
代表兼チーフデザイナー。カ
スタムハンドル「ウエーブ」
の生みの親。新さん開発の
「ハイサイドSR」も新発売！

ARATA FULL THROTTLE

最速理論

Fastest Theory

エリアで最速・最短に上達するために覚える技術

Theory4: ベイトクランキングのススメ

最速で釣るための 仮説



↑エリアでベイトを使うには、リール、ロッド、ライン、フックといったタックルのバランスが重要になる。それができればかなり快適な釣りが可能だ。



↑当日最も釣れたルアーはハイサイドSRの表層狙い。「ハイサイドSRはロッドポジションを変えて10～30cmのレンジを狙います。釣り方はベイトもスピニングも一緒ですが、ベイトでも速い釣りから速い釣りまでできるので、いろいろな釣りを楽しめますね」

今回紹介するのは、ベイトタックルを使ったクランクインクについて。最新のエリア用ベイトタックルを用いることで、このコーナーで追い続けている。最速で釣れるパターンに持ち込むためのポテンシャルがあるのかについて解説してもらおう。

「ベイトタックルの利点には、糸フケが少ないため操作性が良い点があります。なにより、手返しが良いというところが最大の利点ですね。釣つ

ていてダイレクト感が強いのも魅力です。

ベイトというと大場所のイメージがある人もいますが、キャストビリティが良いとありますが、キャストも得意ですから、朝霞ガーデンのような比較的小規模な場所でも手返しよくキャスト数を稼げるので、アドバンテージがあります。状況の見極めができればかなり有効なシステムなので、導入すると面白いと思いますよ。

今日は、中層に沈んでいる魚をハイサイドMR、表層に浮いている魚をハイサイドSRを中心に狙えばよいと仮説を立てて狙ってみます」



↑エリアストライカーのベンドカーブ。ティップセクションが入るだけでなく、ベリーからバットにかけてのセクションの曲がりかスムースなのがよくわかる。「投げやすくバラしにくい。使用感はスピニングと同等で、バラにくさもスピニングとほぼ変わりません」



↑リールは各社から発売されているベイトフィネス対応の物から選ぶ。できればローギア、浅溝タイプが望ましい。



↑ラインはナイロン4lbがオススメ。PEを使う場合は、ナイロンリーダーを付けるようにしましょう。

「リールはバスフィッシング用の小型の物で、最近では当たり前になってきた。ベイトフィネス、対応の物が中心になります。ギア比は選べるならローギア、スプールは極力浅めがいいです。深溝だと沢山ラインを巻く必要があり、スプールを含めた回転部分が重くなってしまいます。」

最近ではベイトフィネスリールのスプールやブレーキシステムを更にチューニングするパーツも多く出ていますので、それらを手早く使うと、

ラインはどんなものを使用しているのでしょうか？

「あとはハンドルですね。エリアでは超スローリトリブに対応する70mmがオススメです。同じリールでバスのベイトフィネスも行う人には80mmが使いやすいと思います」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

他に、タックルで意識している点はありませんか？

「あとはハンドルですね。エリアでは超スローリトリブに対応する70mmがオススメです。同じリールでバスのベイトフィネスも行う人には80mmが使いやすいと思います」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

検証のための知識①

エリアフィッシングに最適なベイトタックルとは？

「昔前はエリアでベイトフィッシングを行うのは難しかったが、ここ数年のベイトフィネスの流れからベイトリールは進化が著しい。ロッドも各社から、エリアでも使用可能な柔らかめのベイトロッドが発売され、今では選択の幅がかなり広い釣りとなった。」

「リールはバスフィッシング用の小型の物で、最近では当たり前になってきた。ベイトフィネス、対応の物が中心になります。ギア比は選べるならローギア、スプールは極力浅めがいいです。深溝だと沢山ラインを巻く必要があり、スプールを含めた回転部分が重くなってしまいます。」

「リールは各社から発売されているベイトフィネス対応の物から選ぶ。できればローギア、浅溝タイプが望ましい。」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」

「バックラッシュを繰り返すと投げ切れが起こることがあるので、今ではナイロンに落ち着きました。細すぎず太すぎない4lbがちょうど良いですね。スプールを軽くするために、ラインは50mも巻けばいいでしょう」



↑ハンドルは70～80mmが使いやすい。DLIVEからもベイト用カスタムハンドルがリリースされている。写真右がWAVEベイト70mm、左が同80mm。

キャストに必要な セッティングを覚えよう

ベイトタックルを使う上で必ず覚えておかなければいけないのが、ブレーキの調整方法だ。これはスピニングリールにはないので、しっかりとやり方を覚えておこう。

ブレーキはメカニカルブレーキ、マグネット（遠心）ブレーキの順に行う。詳しい方法は左の写真を見て欲しい。

「飛距離が極端に出ないという人の

リールを見ると、メカニカルブレーキがカツカツに締まっていることがあります。それでは高性能なリールを使っても性能が死んでしまいますから、必ず細かく調整して下さい」

「キャストについては、エアリアではオーバーヘッドが基本となるが、向かい風や強風時には、マグネットブレーキを若干強めに設定するといいでしょう。ボトム狙いの重めのルアーを投げるときは、若干軽くしてあげると飛距離が出るのでいいですね」

まずは投げやすいサイドキャストから練習するといいたいだろう。

「キャストはクランクが20mも投げられれば十分ですね。飛距離が多少落ちても、トラブルの少ないセッティングがオススメです。」



メカニカルブレーキ



マグネットブレーキ

◆キャスト時には、マグネットブレーキ（写真のモデルはマグネットブレーキ。リールによっては遠心ブレーキを搭載している）で調整を行う。「このリールは0の基準点がありますから、ここから調整を始めます。ブレーキが10段階のものなら、初めは強めから投げて、少しずつ弱くしていくといいですね。ルアーはシルエットがコンパクトな方が投げやすいです。その都度調整してみてください」

↑リールのブレーキ調整は、必ずメカニカルブレーキから行う。「スプールを押さえてカタカタ左右に押し回すくらいまで回したら、クラッチを切ってルアーを地面に落とします。そのときに、ラインがスプールから少し出ると同時に調整しておけばいいでしょう。メカニカルブレーキは一度設定したら、固定したままもう触らないようにして下さい」

◆ルアーが地面に着いたときに、スプールからラインがこれくらい出るのが最適な設定。メカニカルブレーキを微調整しながらやってみよう。



◆「最初からオーバーヘッドで投げようとしても、バックラッシュばかりで釣りにならないと思います。まずはサイドキャストでロッドにルアーの重みを感じる感覚を身につけて、それからオーバーヘッドにしていけばいいでしょう。ベイトは振り幅が大きいので、サイドキャストで投げるときは、隣りの人やロッドに引っ掛けないように注意して下さい」

ベイトタックルが得意なメソッドはある？

ベイトタックルを使う場合、どんな釣り方が向いているのだろうか？

「ベイトの場合、不要な糸フケが出にくいので、トップやボトムの釣りが得意ですね。特にクランクのボトムノックなどはやりやすいです。」

だからといって他の釣りができない訳ではなく、今日も中層はハイサイドMRで、表層はハイサイドSRでというように、スピニングで狙うのと同じように攻略しました。もちろん放流をスプーンで狙うことも可能ですよ。

スピードもスローからファーストまで何の問題も無くできますし、アワセ方やファイトなどもほとんどスピニングと変わりません」



↑糸フケが出にくいこと、層底がわかりやすいのでボトムの釣りは得意中の得意。それ以外の釣りもセッティングが出ればスピニングに負けない高次元な釣りができるのがベイトタックルだ。

マイクロスプーンを使うような状況こそ向かないが、それ以外の状況では投入すれば実践的かつ面白い釣りができる

バックラッシュを してしまったら どう直す？

◆ベイトにつきものと言われるバックラッシュも、直し方を見えておけば怖くないぞ！



①軽いバックラッシュの場合は、スプールを後ろに回転させて、ラインが絡まっている部分をほどく。ぐちゃぐちゃになっている場合は、指で掴んでほぐしてみよう。

②ラインがほぐれたら、先端から引っ張り出し、絡まった部分をスプールから抜き取る。

③最後に、指でラインを押さえながらラインをスプールに巻き取る。このときラインにしっかりとテンションが掛かっていないと、次回にまたバックラッシュしやすくなるので注意しよう。

※ハイサイドMR(上)とハイサイドSR(下)。ハイサイドSRはウォープリング中心の動きで、夜間10~30cmをトレースしながら魚を誘うクランクだ。11/2発売。

Verification

最速で釣るための
検証

ARATA'S CHOICE



釣っていて面白いのはもちろん、実用性においても性能が秀でているベイトタックル。使いこなせば新たな遊び道具としてはもちろん、大会における武器として使用できるポテンシャルも極めて高い。

「今日の取材は仮説通りの方法で釣れましたね。トップウォーターでの釣り、中層のクランキング、ボトムでの釣り、2g以上の放流スプーンに關しても、できる。と言うレベルではなく逆に、得意。アドバンテージがある。と言っても過言ではないですね。」

ベイトリールはバーミングができるので、軸がぶれずにデッドスローで巻くのも得意です。どんなスピードにも想像以上に対応できます。」

たしかに、今回の取材はベイト縛りでしたが、トラフルもほとんどなく、快適に釣っていましたね。」

「ただ、それらを成立させ、快適なエリアベイトフィッシングを行なう為には絶対条件が付きます。」

それは、バックラッシュせずに釣り続ける事が出来る。こと。これが大前提ですね。これさえクリアすれば、スピニングでの釣りと同等に充分こなせますが、そのためにはリール、ロッド、ライン、フック、全てのタックルバランスが非常に重要になります。

タックルバランスの補足ですが、

「キャストに関しては、経験がない方は少し大変ですが、時間をかけじっくり練習すれば解決できると思います。最初は重めのルアーで練習するのが良いでしょう。」

今までウィークポイントとされていたキャストやバラしも、今回発売したエアーストライカーがあればロッドで解消できるようになったので、かなり本格的なエアリアベイトフィッシングが行えるようになりましたね。」

ラインが太すぎると、当然飛距離が悪くなります。細すぎると、スプーを繰り返すと切れてしまいます。ドラッグは基本がバスのリールなのでスピニングのような調整幅がありません。ですからきっちりやらないと快適に釣りができません。間違ってもフルロックはしないで下さい。フックですが、リールにパワーがあるので、細軸の場合はどうしても強引なやり取りをすると伸びてしまいます。できればファイナフックは使わない方がいいでしょう。」

あとは初心者の方で問題があるとしたら、キャストでしょうか？」

「キャストに関しては、経験がない方は少し大変ですが、時間をかけじっくり練習すれば解決できると思います。最初は重めのルアーで練習するのが良いでしょう。」



※トップやボトム系の釣りはもちろん、スプーンを使った釣りにも対応可能。エアリアベイトの世界は、一昔前に比べ、大きく進化している。

今月の
ひと言

新しいジャンルの
釣りにも
チャレンジしてみよう!

ベイトタックルは、セッティングさえしっかりできればいろいろな釣りにオールマイティーに対応できるシステムです。チューニングパーツを組み入れたり、ハンドルをつけてリールをカスタマイズするのも面白いので、エリアの新しい釣りに挑戦してみたいですね!



※新さんから、ウェーブベイトハンドル(タイウ/ABU用70mmピーストレッド右巻き専用)を1名様にプレゼント! 欲しい方は本誌アンケートハガキの何でも欄(携帯からはご意見欄)にハンドル希望と書いてご応募ください(写真のリールはプレゼントに含まれません)。



※新さんのタックル
ロッド:エアースティック AS-2582 エリアストライカー(ムカイ)
リール:REVO LTZ AE74-Racing(アブガルシア)+BFC930PRO-エアリア仕様プロト(ZPI)+ウェーブベイトハンドル80mm(DLIVE)
ライン:ファメルスーパーソフトナイロン4lb(ヤマトヨ)
エアーストライカーは新さんがゼロから開発した自作のロッド。「これでやっと本格的にエアリアベイトで戦えるロッドを手に入れました」という出来を、ぜひ試してもらいたい!

ARATA'S VOICE